

同志社大学

2011年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2012年 3月 28日提出

所 属	職 名	氏 名
心 理	教 授	早 樫 一 男
研 究 題 目	事例検討法としての家族造形法の適用に関する心理臨床的研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究では、事例検討における家族造形法の適用について、実践事例を心理臨床的にまとめることにより、事例検討の方法としての有効性を明らかにすることを試みている。</p> <p>本年度は様々な実践現場での活用を目指した。具体的には、実践的事例検討会（家族心理学会主催WS）や児童福祉施設職員研修（月2回、半年）、さらには対人援助現場職員対象の研修会（月1回 年8回実施）などにおいて家族造形法を使った事例検討を行った。</p> <p>その結果、様々な対人援助分野で適用可能であること、またその有用性が確認された。</p> <p>なお、事例検討の実際や適用に関する心理臨床的研究の成果や考察に関しては、「対人援助学マガジン（対人援助学会 年4回発行）」の中で、「家族造形法の深度」として報告しているところである。</p> <p>さらに、児童福祉施設においては、各回ごとに参加者からの感想文の提出を求めており、それらをまとめることによって、次年度の実証的研究の基礎につなげる予定である。</p>	